

現代文化学科における情報教育の課題

飯野 守
太田信宏

1 はじめに

本学旧文芸科は、二〇〇〇年度から大幅なカリキュラム変更を行うと同時に、マスコミ情報コースと文芸コースという二コース制の現代文化学科へと名称変更した。そして、「マスコミ情報コース」では、情報処理（コンピュータ）関連の科目を大幅に充実させ、全国大学・短期大学実務教育協会が認定する称号である「情報処理士」を付与できるものとした。この称号を得るためには、学生は二〇単位を修得することが求められているが、それに合わせて、現代文化学科では七科目を専門科目として新設、一科目は従来から設置されていた専門科目、四科目は図書館学科目ないし教養科目をもつて充当することにより、計十二科目を情報処理士認定の科目（以下、総称して「情報処理士認定カリキュラム」とする）として設置した。この情報処理士認定カリキュラムは二〇〇一年度末をもって一巡する。そこで、このカリキュラムを主として担当する二名（太田・飯野）は、これを機に、その教育効果・学生の満足度・科目間の整

合性などを知るために、アンケート調査を実施した。本稿はその報告である。

2 アンケート結果

本アンケートは「マスコミ情報コース」二年次生に対して、春季期の最終授業内に実施したものである（回収数72名、在籍80名）。なおアンケートの調査項目は44、45ページに掲載した。

Q1.「情報処理士」という資格について、入学前から知っていたという学生は64%（46名）、入学後に知ったという学生は36%（26名）であった。おおよそ三人のうち二人は何らかの方法で（学校案内、オープンキャンパス、ホームページ等で）、事前に知っていたことになる。ただし情報処理士が当該コースの主要資格に位置付けられている点を考えると、この割合は決して高い数字ではないように思える。結果として入学後は93%の学生が情報処理士の取得を希望していることや（Q6より）、昨今の高校生一般の動向から考えても学生の資格志向は強まっていると見てよい。当該資格の認知度

が三分の二程度であった理由として、「情報処理士」の資格は、いわゆる国家資格のように世間一般に広く知られたものではないこと、さらにはマスコミ情報コースのカリキュラム・教育目標がまだ十分に高校生に浸透していない面があること、などが考えられる。

Q2. 「情報処理士」の資格内容についての理解度を見ると、「だいたい理解している」が7%（5名）、「少しは理解している」が61%（44名）、「ほとんどわからない」が32%（23名）であった。資格についてのガイダンスは四月のオリエンテーションでまとめて実施しているが、それ以降については基本的に各授業内で行うことになる。情報処理士の資格取得が特定の職種に直結することではないため、資格内容を明確に把握させるとするのは難しい面もある。しかしながら三分の一近くが「ほとんどわからない」と回答しているのは、やはり学生に対してのアナウンスが不足していると見ることができ、改善をはかるべき点と考える。

Q3. Q4. 将来、情報処理関係の仕事を「積極的にしたい」という学生は29%（21名）、「どちらともいえない」が63%（45名）、「したいとは思わない」が8%（6名）であった。またコンピュータの仕事に対する自信については「ある程度自信あり」が13%（9名）、「何とかできそう」が79%（57名）、「自信がない」が8%（6名）であった。両方の結果をクロスさせてみると、情報処理関係の仕事について、「自信があるので積極的にしたい」という学生は7%（5名）とあまり多くないが、逆に「自信がないので将来は仕事をしたくない」という割合も4%（3名）とごくわずかであった。これらのことから、多くの学生は「必ずしも積極的にコンピュータに関わりたいた訳ではないが、その場面になれば何とかできる」と考え

ているようである。これからの時代、業種や職種に関係なくさまざまな場面でコンピュータが活用されることを認識している結果といえるかも知れない。

Q5. 「マスコミ情報コース」への進学を第一志望と答えた学生は76%（55名）であり、第一志望が他にあった学生は24%（17名）であった。約四分の三が第一志望であるという割合が「高い」といえるかどうかは議論の分かれるところかも知れない。ただここ数年の短大進学率や本学への応募状況などを考えたとき、共通の目的意識を持った学生が全体の四分の三以上存在しているという状況は、一定の評価ができるのではないかと考える。第一志望が別にあったという17名のうち、情報・マスコミ系の四年制大学を志望した学生が7名いた（うち文教大学情報学部を第一志望とした者が4名）。このことから本学「マスコミ情報コース」が、四年制大学の同系学科を目指す受験生に対する一定の受け皿になっていることは推測できる。ただしそれほど大きい数字ではないことから、たとえば短大卒業後に編入を考えている学生を今後も一定数以上確保するというようなことは、なかなか困難であろうと思われる。

Q6. 学生が入学後に取得したいと考えている資格の種類は図1右下のとおりである。最多は「情報処理士」の67名（全体の93%）であり、次いで「司書」19名（同26%）、「ワープロ」11名（同15%）、「その他」6名（同8%）と続いている。この中で情報処理士と司書の二つは、カリキュラム上に設置された指定科目の単位を修得することで卒業時に資格が取れるものである。またワープロ検定の目標レベルについては、上は1級から4級までかなり幅があった（最多は3級の5名）。したがって学生のキーボードタイピングやワー

プロ技能に関してはある程度の能力差があることが推測できる。また「その他」として挙げられていた資格は英検、TOEIC、秘書検定、漢字検定などであった。調査結果ではおおよそ四割の学生が複数種類の資格を希望している。情報処理士と司書の両方取得しようとする、履修上の制約などからかなりタイトな時間割になってしまいが、それでも21%（15名）の学生が同時取得を目指している。学生の「資格重視」という傾向はこのような結果にも現れている。なお資格取得をまったく考えていないという学生は、今回の調査でわずかに1名であった。

Q7. 各科目の関心度・理解度・満足度 情報科学

図1に見られるように、関心度・理解度・満足度のグラフが「やや低い」を頂点として全体として右に傾いている。「情報科学」では情報処理士認定カリキュラムの導入として、デジタルの考え方、コンピュータの仕組み、ネットワークなどを取り上げたが、目の前のコンピュータを操作することとは異なる、抽象度の高い、しかも理科系の色彩をもつ講義科目であることもあり、このような結果となった。講義内容を学生に身近なものに感じさせるため一層の工夫が必要とされていると思われる。

情報処理概論

関心度・理解度・満足度の三つの指標がほぼ同じような傾向である。「普通」が最も高く、次いで「まあまあ」、「非常に高い」と続いている。授業としては春学期の「情報科学」をベースに、ハードウェア/ソフトウェア並びに情報処理の仕組み全般を学習する内容構成になっている。理論が中心であり、（学生にとって関心の高い）

パソコン実技/操作などとは直接的に結びつかないことから、「退屈な授業」になりやすい側面を持っている。講義形式で理論をきちんと学ぶことの重要性を理解させるとともに、学生が常に関心を持って授業に臨めるよう、たとえば身近な事例を多く取り入れていく工夫も必要であろう。内容的に重複する項目の多い「情報科学」と、どのように差別化をはかっていくかなども今後の課題である。

マスコミ概論

情報処理士認定カリキュラムでは、唯一カリキュラム変更前から存続していた専門科目であり、現代文化学科全体の必修科目の一つでもある。この科目は、具体的な事例を豊富に取り上げることから学生に人気が高く、今回のアンケートでも関心度・満足度が高い結果が出た。元来「マスコミ情報コース」にはマスコミに関心のある学生が入学しているのだが、ケーススタディ的科目が学生に積極的に受け入れられていることを窺い知ることができる。ただ理解度は際立って高いわけではなく、関心と理解との間のズレを埋めることが課題と言えそうである。

情報文化論

情報科学と対になる理論科目であり、情報の文化的側面や情報と文化との関わりを取り扱う。二〇〇〇年度は情報科学と同一の担当者が担当し、情報化の歴史と情報社会の実際、情報と文化との関わり、リテラシーなどを主要な内容とした。関心度・理解度・満足度とも、「普通」に頂点が来ており、正常な分布と言えなくもないが、「非常に低い」が若干多いことも目立つ。常識的なことだが、抽象的な講義に終わることなく、学生の興味・関心を引き寄せる具体的話題を盛り込むことが必要な科目と言える。

プログラム演習

三つの指標についてそれぞれ特徴が表れているが、特に関心度と満足度が比較的高い数値になっている（普通以上という回答を集計するとどちらも93%以上になる）。情報処理士認定カリキュラムの中で唯一のプログラミング授業であり、学生の関心が高いというのはある程度理解できる。ただしプログラム作成のレベルが一定水準以上になってくると、個人の向き不向きがどうしても出てくる。いわゆるプログラミングに対する適性である。その結果として「プログラムが書けない／理解できない」という学生が出てくることになる。この結果はグラフにも表れている。一般論でいえば、理解できなければその分満足度も低くなるのが普通であるが、この科目に関しては（たとえ理解が十分ではなかったとしても）ある程度満足感が得られたという、やや興味深い結果になっている。プログラミング科目という特性の一つと考えることもできる。いずれにせよ理解力が不足している学生が一定数いるという現実がある以上、そこへ向けた対応が今後求められる。

情報検索演習 I

評価としては、「普通」が最も高く、三つの指標がほぼ同じような傾向を示しており、目立った差異は見られない。授業内容はデータベースの検索演習であり、CD-ROMやインターネットの利用が中心になる。普段使い慣れたウェブページの利用などが内容になり含まれていることから、満足度が低いという学生の声はほとんどない。七／八割の学生が「まあまあ」から「普通」という段階に位置している。このことから授業に対する一定の評価は得られていると見てよい。学生にとってこれまで以上に関心度の高い題材やテ

ーマをどのようにして求めていくかが、今後の課題になってくると考えられる。

情報処理 B

表計算ソフト「Excel」の演習授業である。折れ線グラフは左半分が高くなっており、評価の特徴がよく表れている。「やや低い」「非常に低い」というマイナス評価は二つ合わせても5%程度にとどまっていることから、授業全体としては比較的高いレベルの評価を得ていると考えてよい。「Excel」はワープロと並ぶビジネス分野の代表ソフトということもあり、学生の関心度も非常に高くなっている。課題となる点としては、関心度の高さに比べると、理解度・満足度の両方がやや低くなっていることである（どちらも「まあまあ」が最多である）。学生の期待度が大きいだけに、今後はさらなる内容の充実が求められる。

Q8・履修予定科目に対する期待度

二年次秋学期（二〇〇一年度）には情報処理士認定のための指定科目が五科目（八単位）開講された。アンケート時には未履修だったこれらの科目に対して学生がどのような期待感を持っていたかをここで簡単に考察しておく。期待度を評価するためには、学生自身が各科目の目標やシラバスをきちんと理解していることが前提となる。ただし本調査は学生がシラバスを見ながら回答したものである（したがって多くの学生は科目名称から内容を推測して判断したものと考えられる）。なお選択肢は「非常に期待」「普通」「それほどでもない」「内容がよく分からない」の四つとなっている。

科目別に見ると「情報処理 D」が、「非常に期待」するが35%で最も高い。「普通」を合わせると81%になる。前項でも述べたよう

に修得済みの「情報処理B」に対する評価が高かったことから、その延長線上にある「情報処理D」への期待も高くなっていると思われる。次いで期待度が高いのは「マルチメディア演習」である。

「非常に期待」が24%、「普通」が64%あり、合計すると88%になる。パソコンを使用する演習科目であるということ、さらにはマルチメディアという名称から一定の期待度、関心度が得られたものと推測できる。

逆に同じ演習科目でも「情報検索演習II」の期待度はそれほど高くない。「非常に期待」が10%、「普通」が56%であり、「それほどでもない」が26%となっている。春学期に受講した同名科目「情報検索演習I」で、ある程度の内容が予測できてしまい、新鮮さが弱まってしまったことなどが原因として考えられる。

残りの二科目は講義科目である。「情報ネットワーク論」は期待度「普通」というのがちょうど50%あり、「非常に期待」が18%、「それほどでもない」が26%で適度に分散している。ごく標準的な期待度になっているといつてよい。

「コミュニケーション倫理と法制」については「内容がよく分からない」という回答が18%と最も高くなっている（他の四科目はこの数字がいずれも数%程度である）。シラバスの内容を見ていない（または忘れてしまった）こと、さらには科目名称から内容を推測することが難しかったことなどが理由として考えられる。いずれにせよ期待度の高い科目についてはそれに応えられるよう、また低い科目であれば学生の関心を高めていくような工夫を、個々の授業の中で考えなければならぬ。

Q9. 内容が重複していると思われる科目

情報処理士認定カリキュラム内では、「情報科学」と「情報処理概論」が重複しているとする回答が多かった（12名）。二〇〇〇年度の「授業概要」をみると、コンピュータの仕組みの部分は重複しているとの印象が確かにあるものの、「情報処理概論」は情報処理の実際の仕組みに特化した内容であり、「情報科学」は情報テクノロジーの理解や情報の科学的探究を目指す内容であって、基本的な棲み分けはなされているように思われる。担当者間でさらに細かな調整をすることにより、限られた授業時間を有効に活用する工夫が求められていると言えるだろう。また「情報科学」と「情報文化論」を挙げる回答もあった（4名）。二〇〇〇年度はこの二科目を同一担当者が、一対の科目として担当したため、このような印象があったものと思われる。

他の科目間では、「生活とコンピュータ」（教養科目）と「情報処理概論」（6名）、「情報機器論」（図書館学科目）と「情報処理概論」（3名）、「生活とコンピュータ」と「情報科学」（3名）とする回答があった。けれども、重複の指摘がなされたこれらの科目の組み合わせを見ると、それぞれ受講対象者が異なるもので、科目ごとの完結性が求められるという事情もあり、ある程度の重複はむしろやむを得ないのではないだろうか。

Q10. 授業全体を通しての質問

授業全体を通しての質問は、主として受講生の主観的受け止めを問う質問である（複数回答）。満足度や課題に対する学生側の受け止めの姿勢を知る意味があると言えるだろう。

全体を見渡してみると、「キーボードに慣れることができた」が63名（全体の88%）、「コンピュータを使うのが楽しくなった」が61

名(85%)、「授業を受けたことが、将来役に立つと思う」が55名(76%)と多く、情報処理士認定カリキュラムを受講した者が、それぞれこのカリキュラムを積極的に受け止めていることを知ることができた。さらに「授業の準備にコンピュータを利用するようになった」は45名(63%)、「資料や提出物をコンピュータで作成するようになった」も41名(57%)で比較的多い。これらの数字は、主として実技的な面で情報リテラシーの教育効果が上がりつつあることを示していると思われる。

一方で、情報処理教育の理論面を意識した質問項目に対しては、「コンピュータのしくみが分かった」は31名(43%)、「ネットワークのしくみが分かった」が17名(24%)、「情報処理について、さまざまな側面から学ぶことができてよかった」が32名(44%)であり、また、「情報処理について、系統的に学ぶことができたと思う」が19名(26%)、「情報処理について、より専門的に学んでみたいと思うようになった」が16名(22%)となっており、50%に到達する項目がない。それとともに、「授業科目間の関連がよく分からない」とした者も10名(14%)いる。

これらの数字は、情報処理教育の理論面の受け止めが、実技的な側面ほどには積極的ではないことを示すとともに、改善すべき点の指摘も無視できない数であることを示している。全体のカリキュラムの整合性を十分に検証し、理論と実技をバランス良く習得させるための工夫が求められていることが明らかになったものと言えよう。

3 おわりに

以上、アンケートと結果を紹介してきたが、この結果をもとに次のような三点を指摘して、まとめに代えたい。

第一は、科目により関心・満足度などに大きなばらつきがある点である。講義科目中でも、マスコミ概論が高く、情報科学が低い。また、実技的な要素を含む科目は概ね関心・満足度が比較的高く、一方で理論的な科目に工夫が求められていることが浮き彫りになった。次に第二に注目すべきは、内容の重複について多くの学生が指摘しており、また科目間の関連がよく分からないとした者もいる点である。情報処理士認定カリキュラムは複数の担当者で構成されており、授業の実際の内容について担当者間の一層の連携が必要とされていると思われる。そして第三に、学生の満足度を聞く設問に対する回答によれば、コンピュータに親しむという意味での情報のリテラシー教育の成果が上がっていると思われる反面、右の第一の点と重複するが、基礎教育としての理論的側面には学生の関心が必ずしも高くないことも明らかとなった。

女子学生を対象とした本学の情報処理士認定カリキュラムは、文系の学科で理科系の色彩の濃い教育を系統的に行う新しい試みであり、学生にとっては現代社会で必須の情報リテラシーの能力を高めることができる貴重な機会と言えるものである。

今回のアンケートでは、このカリキュラムの教育の成果もみられるものの、改善すべき課題もあることを知ることができた。特に第二として指摘した、カリキュラムとしての整合性の問題は、早急に解決が可能な課題である。また、第三として指摘した、情報処理に関する理論的科目をどのように学生に受け入れられる形にしていくなかという問題も、重要な残された課題と言える。これらについては改善を重ねて、さらに有意義なカリキュラムとしていきたい。

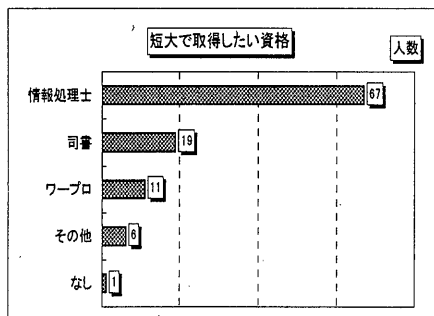
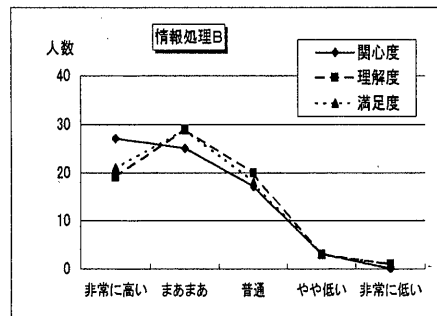
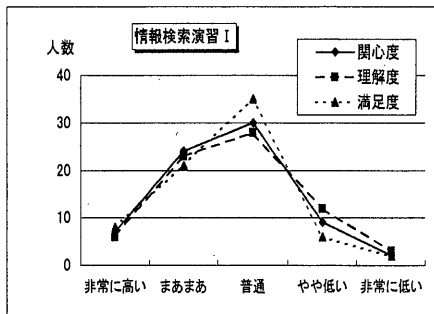
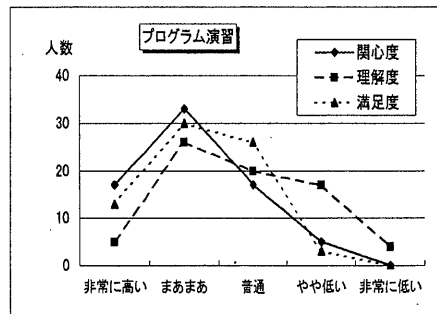
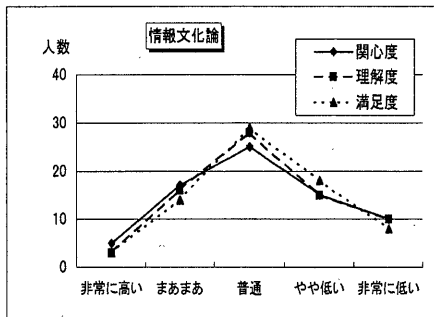
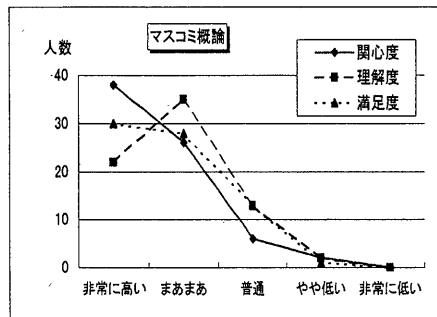
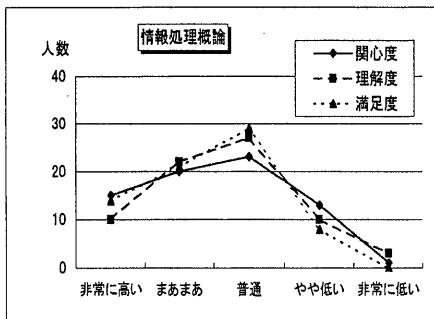
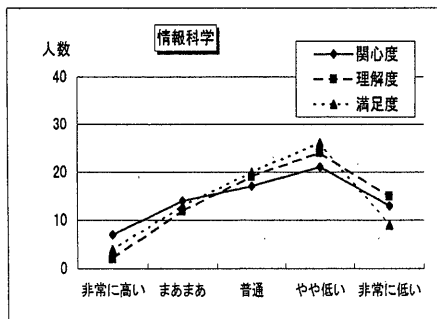
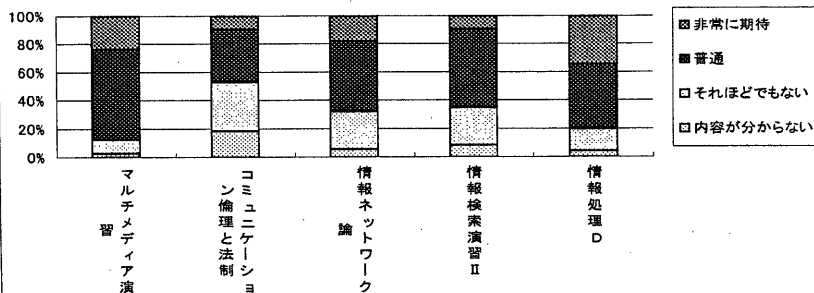
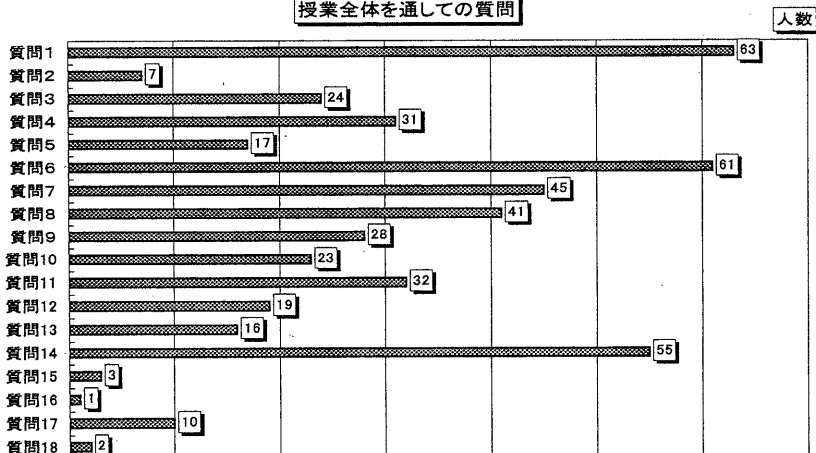


図1 「情報処理士」授業科目に対する 関心度／理解度／満足度

2年秋学期授業への期待度



授業全体を通しての質問



質問1	キーボードに慣れることができた。
質問2	キーボードにはまだ十分慣れることができない。
質問3	情報処理のしくみが分かった。
質問4	コンピュータのしくみが分かった。
質問5	ネットワークのしくみが分かった。
質問6	コンピュータを使うのが楽しくなった。
質問7	授業の準備に積極的にコンピュータを利用するようになった。
質問8	資料や提出物をコンピュータで作成するようになった。
質問9	自分でプログラムを作ってみたと思った。
質問10	情報処理関連のさまざまな資格に関心を持つようになった。
質問11	情報処理について、さまざまな側面から学べてよかった。
質問12	情報処理について、系統的に学ぶことができたと思う。
質問13	情報処理について、より専門的に学んでみたいと思うようになった。
質問14	授業を受けたことが、将来役に立つと思う。
質問15	授業を受けたことが、あまり役に立つとは思えない。
質問16	もっと高度な授業内容を期待していたので、失望した。
質問17	授業科目間の関連がよく分からない。
質問18	授業科目の内容がバラバラで整合性がないと思う。

図2 授業全体を通しての質問

Q 9. これまで受けた複数の授業の中で、内容が重複していると思った科目があれば書いてください。

	と	
--	---	--

	と	
--	---	--

	と	
--	---	--

Q10. 現代文化学科における1年半の授業全体を通して、次の項目に当てはまることがあれば、いくつでも○をつけてください。

(1) キーボードに慣れることができた。	
(2) キーボードにはまだ十分慣れることができない。	
(3) 情報処理のしくみが分かった。	
(4) コンピュータのしくみが分かった。	
(5) ネットワークのしくみが分かった。	
(6) コンピュータを使うのが楽しくなった。	
(7) 授業の準備に積極的にコンピュータを利用するようになった。	
(8) 資料や提出物をコンピュータで作成するようになった。	
(9) 自分でプログラムを作ってみたいと思った。	
(10) 情報処理関連のさまざまな資格に関心を持つようになった。	
(11) 情報処理について、さまざまな側面から学べてよかった。	
(12) 情報処理について、系統的に学ぶことができたと思う。	
(13) 情報処理について、より専門的に学んでみたいと思うようになった。	
(14) 授業を受けたことが、将来役に立つと思う。	
(15) 授業を受けたことが、あまり役に立つとは思えない。	
(16) もっと高度な授業内容を期待していたので、失望した。	
(17) 授業科目間の関連がよく分からない。	
(18) 授業科目の内容がバラバラで整合性がないと思う。	

11. その他、授業や科目に対する意見・感想があれば自由に書いてください。

情報処理士（マスコミ情報コース）に関する調査項目

- Q 1. あなたは本学へ入学する前に「情報処理士」という資格があることを知っていましたか。
 a. 入学以前から知っていた b. 入学後に知った
- Q 2. あなたは「情報処理士」がどのような資格であるかを理解していますか。
 a. だいたい理解している b. 少しは理解している c. ほとんどわからない
- Q 3. あなたは将来、情報処理関係の仕事をしたいと考えていますか。
 a. 積極的にしたい b. どちらともいえない c. したいとは思わない
- Q 4. 仕事でコンピュータを使う場面を考えたとき、自分としてはどの程度できそうですか。
 a. ある程度自信を持ってできると思う b. 自信はないが何とかやれると思う
 c. 自信がないのでできればやりたくない
- Q 5. あなたは本学の「マスコミ情報コース」へ進学することが第1志望でしたか。
 a. はい b. いいえ → 他に志望していた分野・進学先 ()
- Q 6. あなたが本学で取得したいと考えた資格にはどのようなものがありますか。
 (本学入学後に取得したもの、または取得を予定しているものを選んでください。)
 a. 情報処理士 b. 司書 c. ワープロ (級) d. その他 e. 特に考えていない
- Q 7. これまでに受けた「情報処理士」関連の授業科目について、関心度、理解度、満足度をそれぞれ次の5段階で評価してください。

評価基準	a－非常にそう思う	b－まあまあ	c－どちらとも言えない
	d－あまりそう思わない	e－まったく思わない	

この科目に関心を持てたか	a	b	c	d	e
この科目を十分に理解できたか	a	b	c	d	e
この科目の授業内容に満足できたか	a	b	c	d	e

- (1) 情報科学 (1年春) ②単位
 (2) 情報処理概論 (1年秋) ②単位
 (3) マスコミ概論 (1年春) ②単位
 (4) 情報文化論 (1年秋) ②単位
 (5) プログラム演習 (2年春) ②単位
 (6) 情報検索演習Ⅰ (司書科目) ①単位
 (7) 情報処理B (Excel－教養科目) ①単位

- Q 8. これから卒業までの間に履修する「情報処理士」関連科目について、授業内容への期待度を次の4段階で答えてください。

評価基準	a－非常に期待	b－普通	c－それほどでもない
	d－内容がよく分からない		

授業内容に対する期待度 a b c d

- (1) マルチメディア演習 (②単位)
 (2) コミュニケーション倫理と法制 (②単位)
 (3) 情報ネットワーク論 (②単位)
 (4) 情報検索演習Ⅱ (司書科目) ①単位
 (5) 情報処理D (Access) ①単位